

LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社
<http://www.mclc.co.jp/>



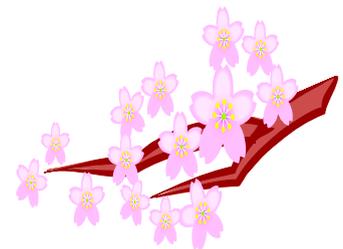
平成24年3月1日（木）発行 【隔月（年6回）発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4620
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

第98号

【目次】

1. 2011年度 MCLC 全社安全大会
2. 運行記録計(タコグラフ)装着義務
中・小型トラックへ拡大検討
3. 免税コンテナの国内運送への使用条件の
廃止検討
4. LIFE手法紹介
5. 場所自慢 Part2 ~第26回 西日本営業部~
6. NECネクサソリューションズセミナー 参加レポート
7. 地球環境とエネルギーの調和展 参加レポート



1. 2011年度 MCLC 全社安全大会

昨年11月8日、「2011年度全社ゼロ災・QA大会」を当社 中部支社で開催しました。

三菱化学社四日市事業所環境安全部の方を来賓に迎え、白石社長以下会社幹部、連合会会長、中部支社・協力会社関係者を含め、約80名が参加した非常に充実した大会となりました。

当社は「安全QAは、物流業務の全てに優先する。環境との調和は、企業としての社会的責任である。」とのRC基本方針の下、社会から信頼される企業文化の構築に取り組んでいます。

今大会は下記発表テーマのように、「協力会社と一体となった取り組み」「事故事例をもとにした安全教育の取り組み」「リスク管理、危険箇所の摘出によるトラブル未然防止活動」など広範囲にわたる内容になりました。また、発表後には、積極的な質問があり、今後の取り組みに活かす議論ができました。

最後には、発表事例を各場所に展開し、事故・トラブルゼロに向けて全社一丸となって取り組むことを誓い、安全大会を終了しました。

◆発表テーマ

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| ①営業課トラブル削減活動の取り組みについて | (鹿島支社 営業部営業課) |
| ②山口営業所におけるトラブル削減活動 | (西日本営業部 山口営業所) |
| ③海運課の安全QA活動 | (四国支社 営業部海運課) |
| ④タンカーチェックの見直し作業 | (中国支社 営業部海運課) |
| ⑤合成ゴムロボット積み付けPRG、加圧タイマーの見直し | (中部支社 生産物流部2課) |
| ⑥AAM輸送の管理体制強化 | (川崎油槽所 業務課) |
| ⑦陸運1課のRC活動紹介 | (九州支社 営業部陸運1課) |



2. 運行記録計(タコグラフ)装着義務 中・小型トラックへ拡大検討

運行記録計(タコグラフ)とは、自動車に搭載される運行記録計器の一種で、運行時間中の走行速度などの変化をグラフ化することで、その車両の稼働状況を把握出来るようにしたものです。この運行記録計は、トラックなど運送車両本体の安全性確保のための各種制限などを定めた「道路運送車両法」により、安全運行管理の徹底を目的として装着が義務付けられており、現在その適用範囲は、車両総重量が8トン以上または最大積載量が5トン以上の運送用車両などとなっています。

国土交通省では、近年社会問題となったタンクローリー事故やバス事故に対応するため、死者数や人身事故数の半減などを目標とした「事業用自動車総合安全プラン2009」を策定し、目標達成のため当面講ずべき措置やフォローアップ会議の設置を定めていますが、この中で運行記録計の装着義務範囲を拡大する方針が打ち出されていました。

これは、ドライバーの「休憩時間」に関連し、労働組合などから、運行記録計がないことが過労運転につながっていると強く指摘されてきたことがきっかけとなっています。装着義務付け対象外のトラックのうち「長距離運転が常態化しやすいもの」について新たに義務付け範囲の検討をすることとなっており、国土交通省としては、現在大型トラックのみとなっている装着義務を中・小型トラックにまで拡大したい考えのようです。

この運行記録計の装着義務範囲拡大については、政権交替などの影響でスケジュールが大幅に遅れていましたが、昨年11月に第1回目の学識経験者や関係業界などからなる検討会が開催され、検討が本格化してきました。

しかし、昨今の厳しい経営環境の中、新たなコスト負担増は到底受け入れられないとして、関東トラック協会は、装着義務付け範囲拡大見合わせを求める要望書及び署名を国土交通省と関東運輸局に提出する等、検討会が結論を出すまでには、まだ時間がかかるものとみられています。



3. 免税コンテナの国内運送への使用条件の廃止検討

昨年11月、財務省関税局は、免税コンテナの国内輸送への使用にかかる条件の廃止に向けた検討に入りました。通常、国際海上コンテナの輸送では、コンテナそのものの輸入は関税、消費税が免除されており、国際運送以外の用途には利用出来ませんが、あらかじめ税関長に届け出ることによって、輸入貨物取出地から輸出貨物詰込地までのルートにおいて、コンテナを再輸出する期間内に1回だけ国内輸送に利用が出来ます。但し、これには諸条件、手続きが必要であり、これを緩和、廃止して免税コンテナの国内運送利用を推進させ、物流コストの低減を図ることを目的としています。

この条件が緩和、廃止されるとコンテナを往復で利用出来るようになり、輸送手段の選択範囲が広がります。当社としても新たな輸送手段として活用し、更なる物流の効率化に取り組んでいきます。

◆現状と検討案の比較

項目	現状	検討案
空コンテナの国内運送への使用	貨物を詰めて輸入されたコンテナであること	制限なし
国内運送の経路	貨物取出地から詰込地までのルート内であること	制限なし
国内運送の使用回数	1回	制限なし
国内運送使用の事前申請	必要	不要
再輸出期間	原則3ヶ月	原則1年

4. LIFE手法紹介

今回は、お客様の「物流診断」を行う際の当社の技法をまとめてご紹介します。

(1) 構内物流における主な調査・解析の手法

- ・作業分析・・・作業者の一日の作業内容を把握し、ムダ・ロスを解析
- ・工程分析・・・繰り返し作業の作業方法・順序・分担のムダ、ロスを解析
解析には映像分析ソフトを使用しています
- ・運搬分析・・・フォークリフトや作業者の動線とレイアウトを検証し問題点を探し出す
- ・機械稼働分析・・・機械の稼働に問題がないかを調査



構内調査の様子

(2) 販売物流における主な調査・解析の手法

物流経費データ(エクセル)をもとに、様々な角度からデータ解析を実施し、最適な物流モードを選定します。エクセルデータが無い場合は送り状等をOCRソフト(※)でデータ化し、ソフトが使えない場合は、データを手入力しています。また、解析をスムーズに行うために以下のツールを使用。

- ・一貫単価・・・発着地間に発生するコストを納入ルート別に自動で計算する
- ・最適出荷場所・・・生産場所(発地)と複数SPと納入先(着地)のデータ及びそれらにかかるコストから、便別、倉庫別、輸送ルート別のコストとCo2のシミュレーションを行う

(3) 適正在庫解析・・・ツールにより、在庫データと入・出荷実績データから適正な在庫を算定し、実在庫との差を明確にする

(4) 情報フロー(組織・仕組み)における主な調査・解析の手法

- ・ヒアリング・・・各担当に聞き取り調査を行い作業内容を確認し情報フローをまとめ、ムダを解析
- ・業務内容アンケート・・・管理・事務部門の必要人員算定

当社では、経験に裏打ちされた技法だけでなく、新しい解析ツールも使用し、正確に迅速に解析を行っています。 ※OCRソフトとは、光学式文字読取装置(Optical Character Reader)のこと

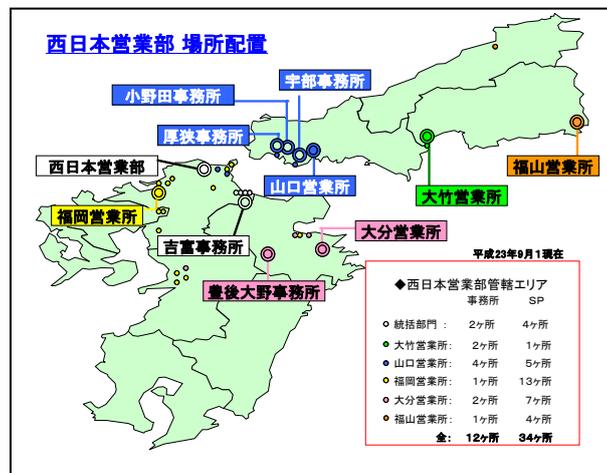
5. 場所自慢 Part2 ～第26回 西日本営業部～

当営業部は九州支社営業2部を経て、2011年4月より西日本営業部として新たなスタートを切りました。

営業部の名前が示す通り、東は広島県の福山営業所より西は大分県の大分営業所まで、5営業所:計12箇所の拠点と34箇所のSPを管轄エリア内にもち、総勢31名のメンバーが日々奮闘しております。取引荷主も30社を超え、扱い製品も様々ですが、各営業所間の情報共有に努め、風通しの良い職場をモットーに取り組んでいます。

上記2営業所以外では、大河ドラマにて注目を一身に集めている?宮島が目と鼻の先の大竹営業所や、部内で最大の拠点数を誇り、維新の香り漂う?山口営業所、そして昨年日本一に輝いたHAWKSのお膝元、福岡営業所と、各場所特色豊かですので、観光名所を各場所ごとにご紹介していくと、スペースが足りません! 特産物や美味しいものにいたっては言わずもがな、メジャーなところを列挙しておきますと、めんたいこ(福岡)、牡蠣(広島)、関アジ・関サバ(大分)・・・あと、あんずジャム(福山)や瓦そば(山口)なども大変おもしろございます(笑)

是非こちらにお越しの際はお試し下さい! では最後は各地方の言葉にて。「はあ、ぶちええとこじゃけえね～、いっぺんきちゃり～! まっとなたい!」



6. NECネクサソリューションズセミナー 参加レポート

2012年2月16日、NECネクサソリューションズ社主催の物流業・製造業・卸業向けセミナー『物流ソリューションフェア』が開催されました。本セミナーは、倉庫管理業務・配送管理業務の効率化や国際物流に関わる管理業務を支援する各種ソリューションの展示とミニセミナーという構成となっており、計10社が出展されていました。

ミニセミナーは、東日本大震災やタイの洪水を背景としたBCP(事業継続計画)をはじめとするロジスティクスマネジメントのあり方や、配送計画支援システムの紹介、また物流業界の特性を踏まえた上でのネットワーク構成やセキュリティの提案、最近急速に普及してきているスマートフォンやタブレット端末の活用といった内容でした。

展示については、貿易・国際物流や配車・配送及び倉庫業務などの各種物流業務支援システムのほか、作業動線分析システム、音声で作業指示・報告をやりとりするシステム、作業指示をヘッドマウントディスプレイに表示するウェアラブルコンピューターや、ミニセミナーでも紹介されたタブレット端末を活用した設備点検システムなどが展示されていました。

やはりIT関連技術の進歩は著しく、私たちも必要に応じてこうした新しい技術を業務に導入していくことで、お客様にご提案するソリューションの質やスピードの更なる向上といったことに繋げられるよう、最新技術の動向や情報の収集に気を配っていききたいと思います。

7. 地球環境とエネルギーの調和展 参加レポート

2012年2月1日～3日の3日間、東京ビックサイトにて『ENEX2012第36回地球環境とエネルギーの調和展』が開催されました。展示内容は省エネルギー及び新エネルギーの最新技術、環境保全に関する技術・機器など多岐にわたっていました。

昨年発生した東日本大震災による福島第一原発事故の影響で電力不足が問題となり、東北/東京電力管内では15%の節電目標が設定されました。その後も、原発の安全性が指摘され、国内全ての原発が稼働を停止する可能性があります。原発が停止すれば火力発電等の割合が増え、排出されるCo2が増加し、地球温暖化抑制への取り組みに逆行するという難しい状況にあります。

この様な状況から、本展示会に関する関心は非常に高く、会場には多くの人々が訪れていました。

原子力や火力の代替エネルギーとして、太陽エネルギーを最初に思い浮かべたのですが、会場には風力・地熱・海洋温度差といった、様々な発電方法が展示されていました。この様な自然エネルギーは発電効率を向上させるのが課題ですが、活用出来ればCo2排出など、環境に与える負担も小さいので、今後の研究が期待されます。

その他に興味を持った展示は、「省エネ・節電」から「エネルギー消費を見える化し管理する」という内容でした。例えば、工場等でエネルギー消費が高い場所は非効率な生産が行われているので、改善を行うというものです。物流においてもエネルギー消費の観点から業務を見つめ直すと、今まで気付かなかったロス・ムダを発見し、効率化の糸口が見つかるのではと感じました。



ソリューション営業部 高田 真好

立春、建国記念日を過ぎた頃より春の足音が聞こえて来ました。「梅一輪、一輪ほどの温かさ」厳しい冬は峠を越えたようです。記録的積雪のニュースに不安を募らせた方も多かったのではないのでしょうか。いわき市のスパリゾートの営業再開など厳しい状況を乗り越えた明るいニュースが梅一輪以上に印象的です。フラガールズのファンの一人としてエールを送ります。欧州経済・金融状況にも厳しい冬が来ていますが、構造改革の梅一輪を咲かせて欲しいものです。翻って当社を見ても業務改革待ったなしですが、**Better late than never** (遅くともやらないよりはよい)の精神でがんばるぞ！